

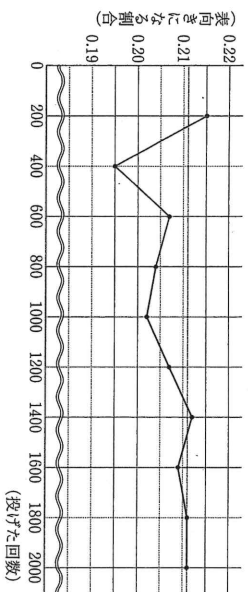


めあて 確率の考え方について理解し、問題を解けるようになる。



教科書 P.158 の「Q」をよく読み、問1・問2の表とグラフを完成させなさい。
ただし、問1では電卓を使ってもよい。

投げた回数	表向きになった回数	表向きになった割合	それ以外になった回数	それ以外になった割合
200	43	0.215	157	0.785
400	78	0.195	322	0.805
600	124	0.207	476	0.793
800	163	0.204	637	0.796
1000	202	0.202	798	0.798
1200	248	0.207	952	0.793
1400	297	0.212	1103	0.788
1600	334	0.209	1266	0.791
1800	379	0.211	1421	0.789
2000	422	0.211	1578	0.789



教科書 P.159～161 を読み、下の () にあてはまることばを書きなさい。

学習のポイント

何通りかの結果が考えられる実験や観察においては、(**実験や観察の回数を増や**) ほどそれぞれの結果の起こりうる割合(相対度数)はある一定の数値に近づいていく。

「ペットボトルキャップを投げて表向きになる」ということから(**期待**)される程度を数で表したものを、そのことから起こる(**確率**)という。

確率の求め方

ある実験または観察を行うとき、起こりうる結果が全部で n 通りあり、そのどれが起こることも同様に確からしいとする。そのうち、ことから A が起こるのが a 通りあるとき、 A の起こる確率 p は次のようになる。

$$p = \frac{a}{n}$$



教科書 P.162 の例1を読み、たしかめ2・問1をやってみよう。

たしかめ2

- (1) 52通り
同様に確からしいといえる。

(2) 13通り

(3) $\frac{1}{4}$

問1

(1) エースは4枚あるのだから $\frac{4}{52} = \frac{1}{13}$

(2) ショーカーは入っていないのだから $\frac{0}{52} = 0$

(3) 4種類のビレカシがあるのだから $\frac{4}{52} = \frac{1}{13}$